今日まで続けることが出来ました。
　最近少し余裕が出て来たので、学生時代から夢中になっていた大好きな絵を又描いてみようかなと思い立ちました。そんな時、スタッフから新日美という質の高い会があるからそこに出してみたらと言われました。未だ下手だからと躊躇していましたが、他人に見られることで上手くなっていくものだからと言われたので、思いきって貴会に応募させて戴ました。
　二回目に出させて戴いた「月の香り」という絵で思いがけず新人賞を戴きました。お知らせを戴いた時はしばらくその意味が分からずポーッとしていました。そばにいたスタッフにこれどういう事かしらと聞いたら、あなた、すごいじゃない！選ばれたのよ。おめでとう。と言ってくれました。彼女は新日美の事は良く知っていて、ここで認められたら大したものよと言ってくれました。
　今まで心につかえていた嫌な事や、悩みがすべてすっ飛んでしまった感じです。その日は本当に素敵な一日でした。生きて来た年月の中で一番嬉しく、晴れやかな体験でした。私を幸せにして下さり本当に有難うございます。
　これからの人生何があっても好きな絵を描いていれば乗り越えられると確信します。絵にはそれだけの力があるのです。

工芸の部

東京都議会議長賞

鈴木　聡
「ひとときの時間(いす)」
(石彫)

この度工芸の部におきまして思いもかけず東京都議会議長賞を頂きました。誠に有難うございます。新日美展には二〇〇四年から出品させていただき今回で八年目になり、その中で「特選」は四回受賞頂きました。皆様のご指導は勿論のこと私を支えてくれる仲間や家族が居てくれたお陰と思っております。
　私が石を彫刻し始めて早十四年。きっかけは石を彫刻していた父です。私はその彫刻している姿、作品を見て「面白そう」・・・これが私の石彫の始まりです。私もなのですが皆様も石は硬い、冷たい、のイメージがあるのでは？そのイメージがなかなかの手強さでした。表現力や加工のやり方で「軟らかさ」や「温かさ」が・・・正直に苦労の連続でした。
　私の中でこれだ、この表現だ…と見つけた時は嬉しくてたまりませんでした。
　今回の受賞作「ひとときの時間」(椅子なのですが)は、作品を見て、ゆっくり腰をかけていただき、何かを思い、何かを感じて頂けたらと思い表現しました。
　これからも日常生活に溶け込んでいけるような作品をどんどん創作していきたいと思うと同時に、今回の作品よりももっともっとすばらしい作品創りに挑戦していきたいと思っています。これからも宜しくお願い致します。
　有難うございました。

新日美大賞

山崎昌子
「太古の星に思いを馳せて」
(皮革)

第三六回　新日美展におきまして　工芸の部門で新日美大賞を頂きました。ありがとうございました。毎年のことながら今年はどんな革をつかい、どのような技法をつかって作品をつくろうかしら?と悩みます。
　革にはいろいろな種類があります。また技法も多数あります。革には可塑性があり水分を与えると柔らかくなる性質があります。今回は牛革をつかい技法的にはカービングという技法をつかいました。
　大理石の上に水を含ませた革をおき工具や石、釘をつかい　木槌で叩くと凹凸ができます。それに革用の染料をつかい染め上げます。
　今回の、太古の星に思いを馳せては中国の桂林で見た鍾乳洞を思い、革に直接かきあげました。そこまではよかったのですがその先がみえません。どのように作品に仕げるか？　迷いに迷いしばらくは手がすすみませんでした。
　ある日テレビで火星の映像を見ましたとき、私の描いた鍾乳洞が重なりその後は電流が走ったような感覚を覚え一気に仕上げられました。題名も太古の星をそのままもらいました。
　賞をいただいたことが素直に心からうれしく思いました。
　今回の受賞を励みに向上心を失わず自分らしい作品をつくり続けていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

新人賞

黒田美枝子
「暁　闇」
(陶芸)

この度は、新日美展新人賞を頂戴いたしましてありがとうございました。私の新人賞は、皆様のご支援の賜物と感謝いたしております。
　ご指導をお願いしております加藤哲郎先生が、熱心に出品をおすすめくださいますので、こわごわ出品致しました。新人賞に決まったというお便りを頂いた時は、自分でもびっくりしていました。嬉しさよりも戸惑っているのが本心です。
　作品を造る上で常に自分の中に限界を持っておりました。自分には無理と勝手に決めてしまい挑戦することもしませんでした。
　最初の目標より小さくなってしまいましたが、自分が持っていた限界を超えたのがこの作品です。まだまだ皆様の作品には届きませんが自分なりに小さな挑戦をしてみました。力不足ですので、大きさにこだわらないで色々な作品をと思っています。
　陶芸を始めて八年になります。その間に主人が他界し陶芸を休んでおりました。一時は陶芸を続けて行くことが出来るか悩んだ時もありました。しかし、加藤先生や教室の皆さんの励ましにより続ける事が出来ました。
　今回の作品は、加藤先生のアドバイスを頂いて作ったもので私の実力だけではありません。もっともっと勉強しなければと思っております。新人賞は、一度だけ、素直に喜びたいと思っています。有難うございました。

自由投稿

埼玉西支部長　千木良宣行

スケッチ旅での出来事

　平成二十四年の西支部恒例の夏旅は二泊三日で、八月下旬小高さんらと四人で、高遠から伊那・木曾と回った。伊那のビジネスホテルに泊まって、昭和レトロのスナックでカラオケでドンチャン騒ぎをした翌朝、五時に起きて、目星を付けておいた古い料亭と思われる、河畔の木造の大きな建物を描きに行った。古いがこの建物には、かつての繁盛の余映がある。踏切のそばで描いていると、すぐそばを風を捲いて中央線の列車が通る。
　描き終わって近くの橋へ行ったら、橋の袂に、「西・権兵衛峠から木曾へ」、「東・高遠から江戸へ」と彫った石碑があり、山頭火の句碑があった。
　山頭火は自由律とかいう、季語や五七五にとらわれない俳句を作った。

あの水この水の
天龍と
なる水音

次号に続く